JOCV千葉OB会報

2022年1月
No. １００
新年号

1. 年頭所感　“JOCV 隊員派遣事業の継続”

謹賀新年！　2022 年を迎えました。2020 年１月頃からの新型コロナウィルス禍によって日本を含む海外諸国における政府の要請や自主的な判断で皆さまも活動の自粛（制限）を行ってきたと思います。残念ながら 2022 年中も活動の自粛がかなり必要になって来るものと思います。特に JICA 海外協力隊（JOCV）隊員として現地派遣に希望を膨らませていた方々にとって派遣待機/中止という事態は精神的にも肉体的にも大変な状況が現在も続いているものと推察します。また、任国に派遣されても活動範囲に制限があるようです。

これまでのJOCVの歴史を振り返ると、1965年に“日本青年海外協力隊”が発足して JOCV 隊員が初めてラオス（東南アジア）に派遣以降、92 ヵ国に約 47,000 名が派遣され現在に至っています（2021 年３月）。また、ＪＯＣＶ発足時から応募者数や派遣隊員数は増加していたようですが、応募者数については 1994 年、また派遣隊員数は 2009 年をピークに減少傾向にあります。この背景として日本国内の経済状況や少子化、海外での活動の場が広がったこと（ＮＧＯ、海外進出企業の増加）があるようです。このような状況下（応募者数減少、新型コロナ禍）においても派遣中止や延期などがありましたが派遣中隊員数は 155 名です（2021 年９月）。隊員の方々にはやっと派遣された任国にて是非、健康に留意しつつ（無理をせず）現地にて活躍して頂きたいと思います。そして、休暇時には任地以外を是非訪れて見聞を広げ、個々人の経験・知見を積んで頂きたいものです。

私事ですがカレンダーをめくって師走（12 月）を見た時、「今年は何をしたのだろうか」と自問自答してしました。決して毎日の生活が単調ではないのですがやはり年々活動（行動）の幅が狭くなってきているか、あるいは新規に見聞する/感動する機会が少なくなったせいかも知れません。当会は 2019 年まで様々なイベントに参加していましたがコロナ禍のためにこの 2 年間に参加機会は減少してきました。しかし、昨年 10 月には次頁以降に特集があるように「国際化教育推進フォーラム in 野田」を関係機関／関係者のご尽力を得て開催することができて、2021 年はエポックになったかもしれません。また、この 2 年間は JOCV 隊員派遣に制約が生じたとはいえ、国内ではさまざまな活動が行われました。これは JOCV 隊員（現地派遣中隊員、OB/OG など関係者）を巻き込みつつ“JICA 海外協力隊事業”への日本国民の理解を深め、かつ帰国隊員の連携を図るという JOCV 事務所（JICA）の強い意志でもあると思います。

私の好きな諺に「艱難汝を玉にす」があります。昨今のコロナ禍で様々な方々（派遣中隊員、待機中の隊員、規定任期前に終了した隊員、隊員を辞退した方、OB/OG 他）には仕事や健康、社会環境等でさまざまな予期せぬことが起こり得ることと想像しますが、その時・その場所で“一所懸命”に対処し乗り切ることを願ってやみません。さらに自らの意志で JOCV 隊員となって開発途上国で悪戦苦闘するかもしれない老若男女のボランティアのご健闘を心より期待しています。

フレーフレー、協力隊！　頑張れ！

青年海外協力隊千葉ＯＢ会　会長 西村邦雄
（昭和57年度4次隊 理数科教師　ネパール：1983.4～86.4）

【遠方はアンナプルナ山系】
［アンナプルナ方面へトレッキング途中（1983 年秋）］

【エベレスト】
［ナムチェバザール近隣より写す（1985 年秋）］

目次

1. 会長挨拶
2. 報告事項「国際化教育推進フォーラム in 野田」特集号
（1） 「国際化教育推進フォーラム in 野田」を振り返って（成瀬猛）
（2） フォーラム第二部トークイベントの生徒さんの成長（常盤亜矢子）
（3） 裏方奮戦記（浜田眞一）
（4） 国際化教育とビジネス（高梨直季）
3. 編集後記
4. お知らせ

2. 報告事項

コロナ禍で活動が大きく制限される中、10 月 30 日（土）「国際化教育推進フォーラム in 野田」を当会主催で開催しました。会場は野田市欅のホールです。後援は JICA と野田市教育委員会からいただきました。

フォーラムは３部構成となっており、第一部は平成時代の OBOG であれば訓練所時代に見たこともある「地球のステージ」公演です。第二部は地球のステージ主宰者である桑山紀彦氏と西武台千葉中学高校の生徒さん６名によるトークイベントでした。第三部は西武台千葉中学高校の校長先生を始め JICA 東京主催の教師海外派遣事業に参加された地元の教師２名と OB2 名を加えた５名のパネラーによるパネルトークでした。

当日は天気にも恵まれて 100 名を軽く超える多くの来場者があり、フォーラムは成功裏に終えることができました。

また、来賓として、野田市長、野田市教育長、千葉県 JICA 海外協力隊を育てる会会長、千葉県シニアボランティアの会会長、JICA 東京センター所長などの方々にもお越しいただきました。

【ロビー（左側：パネル展示、右側：制服展示）】　【千葉県出身派遣中 JOCV 隊員パネル展示】

【途上国の小中学校生の制服展示】

（1）　「国際化教育推進フォーラム in 野田」を振り返って

成瀬　猛（実行委員長、第三部司会/シリア、S52-1）

やり終えて、正直なところ、やっと安堵しています。

振り返れば、構想して実現まで約２年を費やしました。やったところで、相応のインパクトがなければ、ただお金と時間と労力を使った一過性のイベントに終わってしまいますから、タイトルの様な効果を生むためには、同タイトルに影響力がある方達の関心を高め、フォーラムへの積極的な参加を促さなければなりませんでした。さらには、お金をどうやって工面するかも大きな問題でした。

昨年は、野田市が公募した『市民提案型講座』に応募しましたが、見事に不採択でした。この『市民提案型講座』には市からの助成金が最大で 15 万円出るとのインセンティブが設けられており、地球のステージ公演を誘致する為には、非常に大きな魅力でしたが、プレゼンテーション面接で私が力説した『野田市の国際化』は審査員には届かなった様です。まぁ、裏を返せば、野田市の行政にとって『国際化』と云う未来像には関心が薄かったとも云えます。

一旦は資金面の目途が立たず頓挫してしまったフォーラムでしたが、「捨てる神あれば、拾う神あり」ではありませんが、今年の千葉県 OB 会の年次計画作りの話が耳に届き、事業内容によっては JICA から最大 15 万円の支援経費が出る事を知るにいたり、早々に、OB 会に提案したところ、賛同を得ることが出来、JICA からも承認を頂くことが出来ました。勿論、事業に掛かる総予算は 15 万円では足りませんでしたから、不足分を OB 会費から出して頂けることになり、大変感謝しています。

お金の工面と並行して、野田市の国際化と国際化を通じての教育改革に興味をもって頂くために、野田市選出の県会議員、野田市長、野田市教育委員会、野田市市議会議員の方々から同フォーラムに対する理解と支援を得られるように、二年がかりで面識を広げる事に努めて来ました。お蔭さまで、今年、実現したフォーラムには、皆さん揃って出席頂きましたし、野田市教育委員会からは同フォーラムへの後援を頂くことも出来ました。また、現役の野田市の教員にも積極的に参加してもらう為に、JICA が一昨年実施した、教員を対象にした『ODA 現場視察研修』に参加した現役教員の方々とも連絡を取り、フォーラムへの積極的な参加を呼び掛けました。さらには、野田市にある私立西武台千葉中学校・高等学校の校長先生が国際教育に熱心に取り組まれていることを知り、同校の先生方と学生さん達の協力を得ることも出来ました。

お金と人の工面が何とかなったものの、最大の難関はコロナ禍による施設の使用が直前まで不透明だった事かもしれません。イベントの実施予定は 10 月 30 日でしたが、９月末まではコロナ第５波の猛威の為に、市内の公共施設は全て使用中止となっていました。幸いなことに、猛威を振るっていたコロナ第５波が９月に入ると収束に向かい出し、９月末の時点では、緊急事態宣言が解除される状況まで落ち着き、１０月から公共の施設の使用が可能になったのです。

そんなこんなでやっと開催に漕ぎ着けられた訳ですが、開催前の１ヶ月は会場準備と観客集めで、これまた神経を使いました。

準備に関しては、OB 会の皆さん、私が教授職を務めていた麗澤大学の教え子たちが馳せ参じてくれて、会場設営（展示コーナーの準備）、地球のステージ用の資機材運搬、受け付け、観客誘導、後片付けを手際よくやってくれたお蔭で、時間通りに開演し、時間内に滞りなく撤収まで終えることが出来ました。改めて、協力隊 OB 会の皆様、教え子たちに感謝したいです。

集客に関しては、最後の最後まで気をもみました。まだコロナ第５波の余波が残っていますし、野田と云う土地柄もあり、参加登録者（事前予約）の数が伸びず、最後は、知人や家族の伝手をたどって人集めを敢行し、最終的には予定席数の約八割の入場者を得ることが出来ました。

実施に至るまでの苦労話で、殆ど紙面が無くなりましたが、イベントは大成功でした。地球のステージのパフォーマンスも、公演者の桑山さんが特に力を入れてやって頂いたので、大変感動的でした。参加者からの声も絶賛で、多くの方が世界の知らない側面と、国や国籍に関係なく、人の命の尊さを感じてくれたものと思います。

地球のステージの後に続けて行った、学生達と桑山さんのトークも、現役教員によるパネルディスカッションも概ね好評で、参加者の皆さんには、国際化教育が単に語学や知識教育ではなく、国際的に通じる人格教育の重要性が伝わってくれたと思います。

このイベントの成功が契機となって、日本各地の青年海外協力隊 OB 会が地域の国際化の為に行動を起こしていくことに繋がれば良いと思いますし、JICA もその様な OB 会の活動に対して、より多くの支援を提供して頂ければ、結果として、日本全体の国際化にも資すると思います。

最後になりましたが、本イベントの実施に関わって頂いた、全ての人達に感謝の気持ちを伝えたいと思います。

【第１部 地球ステージ】

【第３部 パネルトーク】

パネラー：

須田秀伸氏（西武台千葉中学校・高等学校校長）

佐藤秀樹氏（江戸川大学教員 JOCV エクアドル隊員）

上園雄太氏（野田市七光台小学校教員 JICA 東京センター主催海外教師派遣参加）

横田美紗子氏（野田市柳沢小学校教員 JICA 東京センター主催海外教師派遣参加）

大垣直哉氏（公益財団法人 OISCA 職員 JOCV ボリビア隊員）

司 会：

成瀬猛（立命館客員教授 元 JICA パレスチナ事務所長 JOCV シリア隊員）

（2）　フォーラム第二部トークイベントの生徒さんの成長

常盤　亜矢子（第二部司会/ザンビア、H7-1）

「国際化教育推進フォーラム in 野田」の第二部では、西武台千葉中学校・高等学校の生徒さん６人と地球のステージの桑山紀彦氏とのトークイベントがあり、成瀬猛さんからその司会を任せて頂きました。

地球のステージを見たことがなかった私はトークイベントのイメージが掴めていませんでした。しかし、本番のトークイベントを終えると、桑山さんからは「参加された生徒さんの反応がダントツによかった」と言っていただき、アンケートでは「第二部で、中高生でのディスカッションの場面が少しでもあると、もっと良かったと思っています。とても優秀な子どもたちでしたので。」と言っていただきました（褒め言葉だと思っています）。観客の方からも、西武台の先生からも、とても良かったと声をかけていただきました。

それは、感受性の豊かな生徒さんたちの言葉が素直でまっすぐだったことや、桑山さんが生徒さんの言葉をしっかりと受け止め、また、前向きになれるような言葉を添えて誠実に答えてくださった結果だと思っています。

第一部の地球のステージでは桑山さんが出会った人々のドラマを、第二部では、桑山さんの誠実な人柄が伺えるドキュメンタリーを見せて頂いたようでした。第一部だけでも完成された素晴さがあるのですが、第二部でまた違った側面を見ることで、より国際協力活動への理解が進んだのではないかと思っています。参加者アンケートでは「国際協力や JICA 海外協力隊について理解が深まりましたか?」の設問に、「大いに深まった」に６０%、「深まった」に３３．３%、「国際化教育は意義が有ると思いますか?」の設問には、「大いに思う」に８６%の方が回答しています。

トークイベントの司会をするにあたって、最も大切にしたのは「安心して話せるチーム内の関係作り」でした。フォーラムのために、中３～高２まで有志で集められた６人。顔見知りではない人たちが集まって、突然舞台の上で意見や感想を求められても素直に言えず、教科書的な回答しか出ないのでは、と危惧しました。

そこで西武台千葉中学校・高等学校にお願いし、チームビルティングに効果的な開発教育系のワークショップをフォーラム前に２回、フォーラム後に１回させて頂くことにしました。知識を重視する授業と違って、自分で考えたり、意見を言ったり、他の人の意見を聞くことを重視するワークショップに最初は戸惑いもあったようですが、２回目のワークショップを終えると、アンケートに「普段自分の意見を言うのがあまり得意ではないけれど、みんなが言いやすい雰囲気を作ってくれたので、話しやすかったです」等とあり、安心して意見が言える環境ができたことが伺えます。

さらに、「いろいろな考え方があり、何を重視するのかが人によって変わってくること・・・・自分の持っていないような考え方が聞くことができたのが良い時間だった」といった、他の人の意見を聞くことで、新たな視点に気づくことができたという意見も寄せられました。

当日生徒さんたちはかなり緊張していたようでしたが、フォーラムの経験から自信がついたようでした。３回目のワークショップのアンケートで「当日自分の意見をしっかり言えたことから、以前よりの自分の意見を積極的に言えるようになった。コミュニケーションは大切だと思った」と書いてくれた生徒さんは最初のワークショップではほとんど発言しなかった人でした。

もともと海外や英語に興味がある生徒さんが多かったのですが、途上国の現状に触れる機会はあまりなかったようでしたし、行ってみたい国も欧米が中心でアジアなど途上国を答えた生徒さんはいませんでした。しかし３回目のワークショップ後、地球のステージで紹介されていた国、キリバスに行ってみたい、と答えてくれた生徒さんもいました。また、「自分は海外志向が強いことがわかった。これからの人生で、やりたい事、すべき事を具現化することができた」と将来について書いてくれた生徒さんもいました。

３回のワークショップとフォーラム当日のトークイベントを通して、生徒さんたちの成長を強く感じることができました。
このような機会を与えてくださった成瀬さんをはじめフォーラム開催に尽力くださった皆様に感謝いたします。

（3）　裏方奮戦記

浜田　眞一（裏方/ケニア、S51-3）

言い出しっぺの成瀬猛前副会長（フォーラム実行委員長）から「地球のステージを公演したい」と連絡があったのは記憶が定かでなく随分前のこと、コロナ禍で自粛生活が続いていたこともあり、OB 会活動は停滞していたので、面白いと思って「やりましょう」と即答。そこからは準備に没頭することになります。

地球のステージは JICA 在勤時代の二本松訓練所でカリキュラムとして導入したことがあり、訓練生からは高い評価もあり、是非ともまた見てみたいと思った次第。

成瀬実行委員長との二人三脚が始まり、西村会長や JICA 千葉デスクの木村明日美国際協力推進員などの強力なメンバーが次々と集まり、開催場所の野田市在住の常盤亜矢子 OG も主要メンバーに加わり、総勢 22 名の実行部隊が出来上がりました。

協力隊 OBOG の良いところは、言われなくても良かれと思ったことは自分の判断でどんどんできること。野田市の地元対応は成瀬委員長と常盤 OG が担い、JICA 支援経費申請は西村会長が面倒な手続きを一手に引き受けていただき、木村推進員はギャラリーの展示物の中心を担ってくれました。

コロナ禍で開催が危ぶまれましたが、第５波の最中にも会場下見と打ち合わせで密にならない人数でホールに出向き、計画を一つずつ着実に前に進めて行きました。

フォーラムのプログラムは成瀬委員長と常盤 OG が作成していましたので、裏方の仕事は実施体制の構築と人員配置計画などを具体的に進めることでした。当日の役割分担は最も頭を痛めたことでしたが、支援要員に成瀬委員長の教え子が駆けつけてくれ、麗澤大学卒業生もリスト上は６名でしたが、実際には 10 名くらいの方が協力してくれました。受付、来賓対応、会場案内整理、感染症

対策（消毒や検温など）、ギャラリー担当などの人員配置はスムーズに進み、開催日の 1 週間前にはほぼすべての準備を終えることができました。

当初、地球のステージ公演を開催したいと言っていたイベントがあれよあれよという間に「国際化教育推進フォーラム」という大それた名前になり、野田市長や教育長を始め県会議員や市会議員も来られることになり、来賓としては千葉県 JICA 海外協力隊を育てる会や千葉県 SV の会の会長さん達も来ていただきました。OB 会としてのイベントが大変なレベルになってしまい、きちんとした対応をしなければ協力隊 OB 会の恥になってしまうとのプレッシャーを感じつつ、何とか開催の日を迎えることができました。

当日は天気も良く、事前申し込み制の来場者が次々と来られました。3 階の小ホールにエレベーターから出ると、手差し消毒と検温が待っており、ソーシャルディスタンスを取りながら、スムーズに人が流れ、受付も予約リストチェックは問題なく行われました。

また、小ホールに入る手前にギャラリーがあり、国際協力フェスタ CHIBA などのイベントでも展示した隊員活動写真パネルや今回のイベントの名前にふさわしい隊員派遣国の子供たちの制服や教科書を JICA から借りて展示しました。コロナ禍でなければ教科書は手に取ってみていただきたかったのですが、それができず残念でした。

準備がほぼ整った頃に最も気がかりだったのは地震や火事などの緊急時対応でした。多くの一般の方々に来場していただくのですから、万が一の場合の主催者としての対応は絶対に考えておかなければならないことです。フォーラム開催の前日、ギャラリー展示作業に合わせてホール担当者と打ち合わせすると同時に非常口などの確認も行いました。「緊急時対応」としてまとめたものを当日 10 時からの全体打ち合わせで関係者全員に説明し、さらに控室等の防犯対策についても留守番要員を配置するなど万全の対策を取りました。幸いなことに当日は何ごとも起こらずフォーラムは成功裏に終えることができました。

そして最後に言いたいことは、フォーラム終了後の撤収作業の速さです。さすが協力隊経験者、細かな撤収作業手順や人員配置計画があった訳ではありませんが、会場内の消毒や展示物の撤収など、皆さんきびきびと行動してホール担当者から指示されていたホール退去時間の 17 時までには 5 分以上も余裕を持ってホールを後にしたのです。

ご協力いただいた皆様方、お疲れ様でした、そしてありがとうございました。

（4） 国際化教育とビジネス

高梨　直季（ギャラリー担当/PNG、H22-4）

10 月 30 日（土）に実施された国際化教育推進フォーラムにおいて、桑山さんの素晴らしい音楽を聴きながら、コンゴ民主共和国のコーヒーを輸入販売しているシェトラトレーディングさんの販売活動を主に担当いたしました。

「国際化教育の場をビジネスの場にするのか」とネガティブな思いを抱かれた方もいるかもしれません。しかし、国際化教育の場だからこそ、国際化教育の一側面である「国際協力」と民間企業のビジネスとの関係を伝える良い場だと感じました。実際に、会場に訪れた社会人の方から学生の方まで、多くの方が民間企業によるビジネスが国際協力に役立っていることを理解してくださりました。

シェトラトレーディングさんのコーヒーは紛争国であるコンゴ民主共和国から仲買人を介さないで輸入することで、多くのお金を農園に残しています。これは、買いたたかれている現地のコーヒー農家に公正なビジネスの機会を提供することであり、現地のコーヒー農家、そしてコーヒー豆を日本では販売するシェトラトレーディングさんにとってもプラスになる Win-Win なビジネスです。

「国際化教育」の文脈において「国際協力」と聞くと、「無償」「ボランティア」というキーワードが思い浮かぶ人が多いようです。これは、陽の目に当たる「国際協力」が、JICA を始めとした各国ドナーや UNICEF などを始めとした国連機関、そして国際 NGO/NPO などの活動であり、教育の場ではそれらがモデルケースとして紹介されていることが多いからだと思います。しかし、本当に「国際協力」はそのようなプレーヤーのみで成り立っているのでしょうか。

もちろん、上記のようなプレーヤーが果たす役割は大きいです。「地球のステージ」の皆様のようなお力がないと、草の根の国際協力は進んでいかないのが事実です。そして、それらのプレーヤーと共に民間企業が国際協力に果たす役割も大きいということもまぎれもない事実なのです。たとえば、現地の高等教育機関と連携して研修コースを提供して現地の機械化を人材を育成する企業がいたり、農産物の鮮度が落ちない商材は販売することで現地農家が農産物を高値で売れるようにしたりする企業がいたり、混合飼料を販売して現地の畜産廃棄物による環境汚染を食い止めようとする企業などもいます。このように多くの民間企業がビジネスを普及させつつ現地の社会課題の解決に取り組んでいます。その一つとして、今回のシェトラトレーディングさんのビジネスをこのような場

を借りてお伝え出来たのは国際協力に新たな一面を加える教育効果だったかと思います。

「国際化教育」には多様な側面が含まれています。その一側面である「国際協力」を紹介するとき、意図せずとも、「無償」「ボランティア」といった活動内容を取り上げることが多くなります。しかし、有償であっても、ビジネスであっても、現地の人にとってポジティブな効果があるなら、それは立派な国際協力になります。今後の「国際化教育」において、地球のステージの皆様のような活動とともに、民間企業のビジネスを通じた国際協力にも陽の目が当たることを願っております。

3. 編集後記

記念すべき会報 No,１００です。今回は、野田市で開催された国際化教育推進フォーラムの特集号になりました。HP でのお知らせ掲載程度しか関われませんでしたが、関係者の方々の行動が野田市における国際協力や国際交流に一石を投じたと考えています。

2019 年から会報の編集に携わっていますが、想定していなかったスキルアップにも繋がっていて、何かの行動することは必ず経験やスキルに繋がるものがあると改めて感じました。2022 年はどのような経験ができるのか楽しみです。

まだまだコロナが落ち着かないため、JICA 海外協力隊の秋募集が延期されるなど厳しい状況が続いています。春募集からは予定通り再開されることを願います。

会報をお読みくださる皆さまのご健勝とそれぞれの場所でのご活躍を祈念いたします。

(H27-3　ウズベキスタン　PC インストラクター　高石　千絵)

～お知らせ～

ホームページのご案内

ホームページはまだまだコンテンツが少ないので、掲載する内容など募集中です。地域での国際交流活動など、なにかネタがあればご連絡ください。

URL は下記ですが、「青年海外協力隊千葉 OB 会」で検索していただくことでもアクセスできますので、是非ともご覧ください。

青年海外協力隊　千葉 OB 会　ホームページ：　https://jocvchiba.org/

メーリングリスト／Facebook グループのご案内

上記ホームページにて、当会のメーリングリストと Facebook グループへの参加をご案内しております。
是非ご参加ください。